

じめじめ じとじと いよいよ
梅雨 入り!



「梅雨」と書いて「つゆ」と読む初夏の長雨。中国の長江（揚子江）流域で梅の実が熟す頃の雨を「梅雨（メイウ）」と呼び、それが日本に伝わったと言われています。「つゆ」と読むようになったのは江戸時代のこと。その起源は「露」の連想であるとか、梅の実が熟してつぶれる「潰ゆ（ついで）」からきているなどの説があります。また、西日本と東日本では「梅雨」の性格が違います。西日本ではダイナミックな「ラテン系」とでもいえるか、熱帯地方の「スコール」のような激しい雨が降り、「陽性梅雨」と呼ばれています。一方、東日本ではより「日本的」「情緒的」なしとしとと降ったり止んだりの雨で、「陰性梅雨」と呼ばれています。小さな島国の日本の雨にもこんな違いがあるのです。～和の行事ブックより～

梅雨の雑学



人間にとっては、うっとうしい雨でも、雨が降ると元気に活動し始める生き物がいます。

かたつむり
巻き貝の仲間
雌雄両方の機能を持っている。こけや野菜を食べる。



あまがえる
鳥や蛇から身を守るため、葉っぱの上では緑、木の幹の上では茶色に色を変える。



あじさい
花びらのように見えるのは、がく、花は真ん中にある。



幼児組さんは、雨の日の園庭散歩などを計画しています。この時期だから楽しむことを考えると、雨も楽しいものになることでしょう。

自分で決める！！

5月のゴールデンウィークが過ぎた土曜日、新1年生を迎えてカレーパーティーを行いました。卒園児さんたちは、およそ1か月ぶりに合う友だちの名前を呼び合い、先生たちからは、「大きくなったね。」「会いたかったよ。」と言われて、恥ずかしそうにしながらもとても喜んでいました。小学校での好きな教科や給食のことなどもたくさん話してくれ、たった1か月しか過ぎていないのにすっかり小学生になっている表情に喜びを隠しきれず、終始にこにこ笑顔の先生たち。とても楽しい時間を過ごしました。すいこう認定こども園は、いつまでも卒園児の成長を見守っていきたくと思っています。

さて、そんなすいこう認定こども園の幼児さんのお誕生日会では、お誕生月の子どもたちが、自分の得意なことを披露して、お誕生日会を盛り上げます。年少さんは二人でしたが、みんなの前に立って、「とんとん、ひげじいさん」や「幸せなら手をたたこう」の曲に合わせて、恥ずかしそうにしながらも楽しく表現してくれました。ちょっぴりドキドキしている気持ちが伝わってきましたが、最後まで演じ切った年少さん。とてもかわいい姿でした。年中さんは、鉄棒で前回りをしたり、足を鉄棒にかけてぶら下がったりなど自分の得意な技を披露してくれました。ポーズをとる子どもたちは、「どうだ!」と言わんばかりに堂々としています。年長さんは、この日のために和太鼓とポンポンを使ったダンスを日頃のアソビのコーナーの中に取り入れていました。和太鼓を力強くたたく子どもも、笑顔満載でポンポンをもって踊る子どもも、その表情は自信にあふれています。とても楽しいお誕生日会でした。その中で、年中のTくんは、鉄棒ではなく、大好きな恐竜の絵を披露してくれました。画用紙2枚にわたる大作です。Tくんは、みんなが園庭で遊んでいるときもテラスに机を出してもらって絵を描いていました。

また、和太鼓をたたいている男の子に交じってMちゃん一人勇ましく太鼓をたたいていました。二人とも自分のやりたいことを自分で決

め、担任に伝えて取り組んできたのです。自分で選んだアソビは、とても楽しく、集中して取り組むことができます。少し難しいことがあっても自分で考えたり、工夫したり、友だちに助けを求めたりして乗り越えようとします。自分で選ぶという行為は、生まれたばかりの赤ちゃんでも泣くと言う形で表現しています。例えば、突然泣き出した赤ちゃんを抱っこしても泣き止まないことがあります。そんな時大人は、横に抱っこしたり、縦に抱っこしたり、立ったり座ったりしますが、赤ちゃんは、きっと自分にとって一番心地よい抱っこを選択しているのではないかと思うのです。そして1.2歳ごろになると出てくる「いやいや期」ですが、自分で選ぶという行為は、とても効果的です。「まだ遊ぶ」と言って園庭から帰ろうとしない2歳児さん。「抱っこで帰る?おんぶで帰る?それともよーいどん?」と聞いている保育士に「よーいどんで帰る。」と言ったとたん走り出して一件落着です。小さくても自分で決めたことに対しては、納得しているのです。

子どもたちは、一人ひとり違った可能性を持っています。小さい時から好きなことを選択できるアソビのコーナー、集中して取り組める環境づくりを大切にして、持っている可能性を広げていく手助けができればと思っています。また、年齢が大きくなるにしたがって、ゲームアソビなど一斉に遊ぶ時間もありますが、そこでも「やりたくない」と言う子どもがいます。なぜやりたくないのか、その言葉の後ろに隠れている小さな思いを汲み取りながら、「遊びたくなったらおいでね。」と自分でアソビに参加できるように選択するための時間と安心できる環境を大切にしたいと思っています。

これから梅雨期に入り、うっとうしい時期になりますが、雨の日だからできる活動もあります。雨上がりの園庭を眺めたりして、自然の楽しさ、不思議さに触れ、自然の恵みに感謝しながら、楽しく過ごしていきたいと思っています。

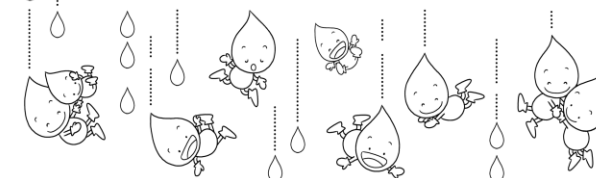
すいこう認定こども園 園長

子育てメッセージ

子どもたちが それぞれに 自分の芽を
息吹かせられるように
大人は 豊かで あたたかい
土でありたい

ある農家の話。その人は、野菜が本来持っている味を最大限に引き出すために、野菜の種類に合わせて「今年こそは、きっといい土を作って見せる」とがんばっているのだそうです。子どもが本来持っているものを最大限に引き出して育てるために、大人自身が豊かで、あたたかい土でありたいと思います。

全国私立保育園連盟



お願い

日が長くなり、お迎えの際園庭で遊んで帰る家族が増えてきました。逆上がりや登り棒ができるようになり、お家の方に見てほしいと思っているのでしょうか。見ている保護者の方も「すごいね。」と自分のことのように嬉しそうに声をかけられており、微笑ましく思いますが、中には、保護者同士で話が盛り上がりお子さんを見ていなかったり、おもちゃを出したまま帰ったりといった姿が見られます。また、駐車場が狭いため、路上駐車となり、近隣の方から苦情などもあります。どの方々も気持ちよく園庭、駐車場をご利用いただきますよう、お一人おひとりのご協力をお願いします。

